

2010年度(2011年3月期) 第2四半期決算説明会資料

2010年11月2日

阪急阪神ホールディングス株式会社

9042 <http://holdings.hankyu-hanshin.co.jp>
(営業情報 <http://www.hankyu-hanshin.co.jp>)

この資料には、現時点の将来に関する前提・見通しに基づく予測が含まれております。実際の業績は、様々な要因により記載の予想数値と異なる可能性があります。

2010年度業績予想の修正(総括)

	09年度 通期実績 ①	10年度 当初予想 (10年5月14日) ②	10年度 今回修正予想 (10年10月29日) ③	=③-①	=③-②
営業収益	6,533億円	6,510億円	6,440億円	△93億円	△70億円
営業利益	701億円	610億円	610億円	△91億円	—
経常利益	504億円	400億円	400億円	△104億円	—
当期純利益	108億円	200億円	200億円	+92億円	—

《業績予想修正の概要》

不動産事業における施設用地の分譲計画の見直し、ホテル事業における宴会需要の回復の遅れ、流通事業における減収等を見込み、営業収益は当初予想から下方修正するものの、これらの減収に伴う原価の減少や各コア事業でのコスト削減努力により、営業利益・経常利益・当期純利益については、当初発表予想を確保する見込みである。

2010年度業績予想の修正

コア事業ごとの営業収益・営業利益

	09年度 通期実績	10年度 当初予想 (10年5月14日)	10年度 今回修正予想 (10年10月29日)	=③-①	=③-②
	①	②	③		
営業収益	6,533億円	6,510億円	6,440億円	△93億円	△70億円
[主な内訳]					
都市交通	1,919億円	1,914億円	1,922億円	+3億円	+8億円
不動産	1,685億円	1,550億円	1,512億円	△173億円	△38億円
エンタテインメント・コミュニケーション	1,079億円	1,057億円	1,061億円	△18億円	+4億円
旅行・国際輸送	629億円	671億円	678億円	+49億円	+7億円
ホテル	610億円	691億円	674億円	+64億円	△17億円
流通	629億円	545億円	532億円	△97億円	△13億円
営業利益	701億円	610億円	610億円	△91億円	—
[主な内訳]					
都市交通	310億円	270億円	262億円	△48億円	△8億円
不動産	309億円	230億円	230億円	△79億円	—
エンタテインメント・コミュニケーション	111億円	105億円	102億円	△9億円	△3億円
旅行・国際輸送	3億円	20億円	28億円	+25億円	+8億円
ホテル	△17億円	2億円	1億円	+18億円	△1億円
流通	4億円	4億円	5億円	+1億円	+1億円

2010年度業績予想の修正 コア事業ごとの設備投資・減価償却費

	09年度 通期実績 ①	10年度 当初予想 (10年5月14日) ②	10年度 今回修正予想 (10年10月29日) ③	=③-① =③-②	=③-②
設備投資 ※ [主な内訳]	1,324億円	743億円	778億円	△546億円	+34億円
都市交通	298億円	274億円	284億円	△14億円	+10億円
不動産	712億円	303億円	334億円	△378億円	+32億円
エンタテインメント・コミュニケーション	64億円	62億円	63億円	△1億円	+1億円
旅行・国際輸送	14億円	32億円	26億円	+12億円	△5億円
ホテル	222億円	17億円	16億円	△206億円	△1億円
流通	17億円	16億円	15億円	△2億円	△1億円
減価償却費 [主な内訳]	604億円	603億円	603億円	△1億円	—
都市交通	305億円	299億円	297億円	△8億円	△2億円
不動産	168億円	180億円	178億円	+10億円	△2億円
エンタテインメント・コミュニケーション	72億円	75億円	75億円	+3億円	—
旅行・国際輸送	14億円	13億円	13億円	—	+1億円
ホテル	32億円	32億円	32億円	—	—
流通	12億円	10億円	10億円	△2億円	—

※ ファイナンス・リース対応分を含む(各コア事業の内訳についても同様)

2010年度業績予想の修正 コア事業ごとのEBITDA

	09年度 通期実績 ①	10年度 当初予想 (10年5月14日) ②	10年度 今回修正予想 (10年10月29日) ③	=③-①	=③-②
EBITDA	1,332億円	1,240億円	1,240億円	△92億円	—
[主な内訳]					
都市交通	615億円	569億円	558億円	△57億円	△10億円
不動産	478億円	411億円	408億円	△70億円	△2億円
エンタテインメント・コミュニケーション	183億円	179億円	176億円	△7億円	△3億円
旅行・国際輸送	16億円	33億円	40億円	+24億円	+8億円
ホテル	15億円	34億円	33億円	+17億円	△1億円
流通	15億円	13億円	15億円	△0億円	+2億円

経営管理指標と有利子負債

(A)09年度実績		(B)10年度 当初予想 (10年5月14日)	(C)10年度 今回修正予想 (10年10月29日)
連結有利子負債/EBITDA倍率	9.6倍	10.4倍	10.4倍
連結有利子負債	12,826億円	12,900億円	12,900億円
連結EBITDA	1,332億円	1,240億円	1,240億円
連結純有利子負債/EBITDA倍率	9.5倍		
連結純有利子負債	12,611億円		
連結ROE	2.3%	4.2%	4.2%
D/Eレシオ	2.7倍	2.7倍	2.7倍

【ご参考】株主資本のうち、阪急電鉄の土地再評価差額金に由来する金額(会社分割に伴い株主資本となる)(93,608百万円)を控除したと仮定した場合の指標

連結ROE	2.9%
D/Eレシオ	3.4倍

[注]

- ① EBITDAは「営業利益＋減価償却費＋経営統合に伴うのれん償却額」で算出。
- ② 連結ROEの算出にあたっては、分母に自己資本の期首期末平均を使用している。

都市交通事業 2010年度業績予想の修正

	09年度 通期実績 ①	10年度 当初予想 (10年5月14日) ②	10年度 今回修正予想 (10年10月29日) ③	=③-①	=③-②
営業収益	1,919億円	1,914億円	1,922億円	+3億円	+8億円
営業利益	310億円	270億円	262億円	△48億円	△8億円

《営業利益予想の主な増減要因》

- 固定資産除却費の増加※、動力費の増加など

※ 固定資産除却費の発生原因となる工事のうちの一部については、バリアフリー工事等であり、行政機関等からの補助金が工事負担金等受入額として特別利益に計上される。

都市交通事業

阪急電鉄・阪神電気鉄道運輸成績(実績)

《阪急電鉄》

運輸収入(第1種・第2種合計)

(単位:百万円)

定期・定期外合計	第1四半期	第2四半期	上期
2010年度実績	22,902	22,159	45,062
2009年度実績	22,763	22,511	45,275
比較	+139	△351	△212
比率	+0.6%	△1.6%	△0.5%

対前年同期比の増減要因(推定)

・新型インフルエンザによる減収の反動増	+385百万円
・摂津市駅開業に伴う影響	+124百万円
・景気の低迷・猛暑の影響・その他	△721百万円

《阪神電気鉄道》

運輸収入(第1種・第2種合計)

(単位:百万円)

定期・定期外合計	第1四半期	第2四半期	上期
2010年度実績	7,279	7,401	14,680
2009年度実績	7,118	7,349	14,468
比較	+160	+51	+212
比率	+2.3%	+0.7%	+1.5%

対前年同期比の増減要因(推定)

・阪神なんば線の需要増	+177百万円
・新型インフルエンザによる減収の反動増	+123百万円
・景気の低迷・その他	△88百万円

旅客人員(第1種・第2種合計)

定期外旅客人員	対前年同期比 +3.4%
定期旅客人員	対前年同期比 △4.8%

旅客人員(第1種・第2種合計)

定期外旅客人員	対前年同期比 +1.5%
定期旅客人員	対前年同期比 +1.7%

都市交通事業

阪急電鉄・阪神電気鉄道運輸成績(通期予想)

《阪急電鉄》

	収入			人員		
	2010年度10月発表	2009年度実績	比較増減率	2010年度10月発表	2009年度実績	比較増減率
	百万円	百万円		千人	千人	
定期外	58,848	58,582	0.5%	299,906	295,522	1.5%
定期	30,094	31,126	△3.3%	300,265	310,441	△3.3%
うち通勤	25,909	26,793	△3.3%	209,952	216,917	△3.2%
うち通学	4,185	4,332	△3.4%	90,313	93,524	△3.4%
合計	88,942	89,708	△0.9%	600,171	605,963	△1.0%

《阪神電気鉄道》

	収入			人員		
	2010年度10月発表	2009年度実績	比較増減率	2010年度10月発表	2009年度実績	比較増減率
定期外	18,297	18,396	△0.5%	98,275	98,736	△0.5%
定期	9,770	9,642	1.3%	95,594	94,884	0.7%
うち通勤	8,808	8,671	1.6%	76,477	75,644	1.1%
うち通学	962	970	△0.9%	19,117	19,240	△0.6%
合計	28,068	28,038	0.1%	193,869	193,620	0.1%

※阪急電鉄・阪神電気鉄道ともに、第1種鉄道事業及び第2種鉄道事業の合計

不動産事業 2010年度業績予想の修正

	09年度 通期実績 ①	10年度 当初予想 (10年5月14日) ②	10年度 今回修正予想 (10年10月29日) ③	=③-①	=③-②
営業収益	1,685億円	1,550億円	1,512億円	△173億円	△38億円
営業利益	309億円	230億円	230億円	△79億円	—

《営業利益予想の主な増減要因》

- 施設用地の分譲計画の見直し等により減収を見込むものの、それに伴う原価の減少等により、当初予想と同水準を見込む

不動産事業 梅田阪急ビル建替

■梅田地区の商勢圏を強化し、将来の賃貸事業の大きな柱に

■事業方針

- ・梅田地区のランドマークにふさわしい大型複合ビル建設
- ・周辺施設とのバリアフリー化ならびに回遊性向上
- ・耐震性能、収益性等、不動産価値を高め周辺競合施設に対する優位性を確保
- ・百貨店の増床に加え、高層オフィス棟を新設
 - －新ビル延床面積：約254,000㎡
 - －容積率：1,800%（都市再生特別措置法に基づき800%の容積緩和）

■建替スケジュール

- ・百貨店Ⅰ期オープン：2009年9月3日
- ・オフィス棟竣工：2010年4月1日
開業：2010年5月6日
- ・百貨店Ⅱ期オープン：2012年春（グランドオープン）（予定）

■百貨店、オフィスの規模

〔阪急百貨店うめだ本店〕

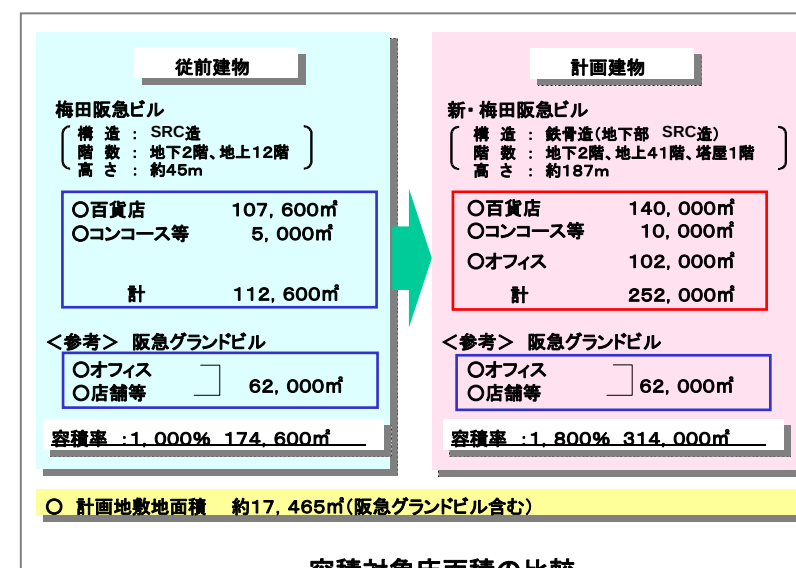
	従前建物	新ビル
容積対象床面積	約107,600㎡	約140,000㎡
営業面積	約61,000㎡	約84,000㎡
売場階数	B1～9F	B2～13F
高さ	約45m	約60m

〔オフィス棟〕

- フロア数：25層（17～41F）
- 1フロア当り延床面積：約3,700㎡
- 1フロア当り賃貸面積：約2,800㎡



建替中の
梅田阪急ビル



不動産事業

茶屋町開発事業東地区開発計画

■ 西地区 (NU chayamachi) に続き、東地区で新たな複合施設を建設

第一種市街地再開発事業(組合施行)

■ 再開発事業概要

敷地面積 5,130㎡

延床面積 36,300㎡

建物規模 地下1階 地上31階(タワー棟)

建物概要 タワー棟、学校棟、業務棟等からなる複合開発

■ 事業概要(当社グループ分)

・タワー棟において、以下の事業を展開する

▽商業施設(1～3階、約3,000㎡)の運営

▽マンション「ジオ グランデ梅田」の分譲(4～31階、174戸)

・再開発組合から住宅保留床を取得し、マンション分譲事業を推進

※別途、地権者住戸12戸あり

■ 開発スケジュール

2007年9月 権利変換計画認可(知事認可)

2008年12月 着工

2011年6月末 再開発建物の竣工(予定)



茶屋町東地区 第一種市街地再開発事業(イメージ)



茶屋町開発事業東地区 位置図

不動産事業

大阪駅北地区(梅田北ヤード)先行開発区域プロジェクト

■ 大阪の最高立地で2013年3月の竣工を目指して、開発を推進

■開発コンセプト

「創造の宮」= 知の循環によって豊かな未来生活を創出するまち

□ 知的創造拠点『ナレッジ・キャピタル』を中核機能として、商業・オフィスなど多様な都市機能を集積。最先端の情報や人材が集積・交流し、新たなビジネスやライフスタイルを創出・発信するまちを目指す。

□ エリアマネジメント組織を設立し、エリア一体での公共空間管理、まちブランド構築を行うとともに、2期開発区域や梅田周辺地域も含む広域的エリアマネジメントに取り組む。



ブロック		Aブロック	Bブロック		Cブロック
階 数		地上38階 地下3階	(南タワー)地上38階 地下3階	(北タワー)地上33階 地下3階	地上48階 地下1階
敷地面積		約10,571㎡	約22,680㎡		約4,666㎡
延床面積		約187,800㎡	約295,100㎡		約73,800㎡
容積対象面積		約168,800㎡	約260,600㎡		約53,700㎡
主要用途		オフィス、 商業施設	オフィス、ナレッジキャピタル、商業施設、 ホテル・サービスアパートメント、コンベンション		分譲住宅
延床面積	オフィス	約236,800㎡			
	商業施設	約80,700㎡			
	ナレッジキャピタル	約88,200㎡			
	分譲住宅	約65,400㎡			
	ホテル・サービスアパートメント	約38,900㎡			

■コンソーシアム代表者
三菱地所

■スケジュール

2007年6月 : 土地引渡し
2008年2月 : 「都市再生特別地区」
都市計画決定
2010年3月末 : 新築工事着工
2013年3月 : 竣工(予定)

不動産事業 新大阪阪急ビル

■大阪の玄関口 新幹線新大阪駅に直結する利便性に優れた複合ビルを開発

■事業方針

- ・新大阪駅北側の社有地に、オフィス・ホテル・商業施設等からなる複合ビルを建設。
- ・JR新大阪駅・地下鉄御堂筋線新大阪駅と直結し、高い利便性を確保。
- ・歩行者動線の整備等により、周辺からのアクセス向上や地域のバリアフリー化にも貢献。

■開発計画の概要

敷地面積	約4,150㎡
延床面積	約35,600㎡
賃貸面積	約16,800㎡(オフィス・商業部分)
建物規模	地上17階

■建物の概要

3～11階	: オフィス(賃貸床: 約15,800㎡)
12～17階	: ホテル「remm」(客室数: 296室)
2～3階	: 商業施設(賃貸床: 約1,000㎡)
1階	: バスターミナル

■スケジュール

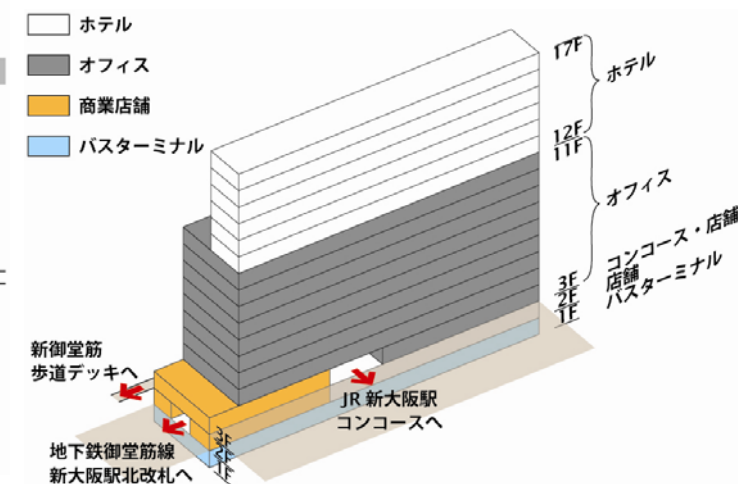
2010年5月	着工
2012年秋	開業(予定)



建物外観パース



新大阪阪急ビル位置図



施設構成図

不動産事業 マンション分譲事業

■ マンション市況の動向を注視しながら、弾力的に供給戸数を設定

- ・ 用地取得は業績回復・持続的な成長に向け、候補物件を厳選しながら推進。
- ・ 顧客目線を重視し、製・販・管の一貫体制により高品質を維持。
- ・ 地域戦略
 - 【近畿圏】阪急・阪神沿線及びその周辺
 - 【首都圏】城南・城西、東急沿線及びその周辺
→ ブランド力を活かした商品供給が可能なエリアに注力。
- ・ 2010年度は約700戸の引渡を予定(収益計上予定の持分戸数)。



ジオ彩都プレミアムテラス
(大阪府茨木市 2010年3月竣工)

「2010年度グッドデザイン賞
(戸建住宅・集合住宅部門)」を受賞

【参考】

2010年度 主な竣工予定物件(関西圏・首都圏毎に竣工順)

	物件所在地	物件総戸数
プロド茨木大池	大阪府茨木市	36戸
ジオ・イニシア桃山台※1	大阪府豊中市	43戸
エルグレース・ジオ六甲※1	兵庫県神戸市	99戸
ジオ豊中 中桜塚	大阪府豊中市	26戸
ザ・千里レジデンス※1	大阪府豊中市	132戸
ジオ甲子園口 ノーヴ	兵庫県西宮市	67戸
ジオ彩都いぶきの森	大阪府箕面市	186戸
ブランズ・ジオ等々力※1	東京都世田谷区	134戸
ジオ梶が谷 桜のヒルトップ	神奈川県川崎市	40戸

※1 共同事業物件

※2 186戸のうち、地権者住戸12戸含む

※3 113戸のうち、地権者住戸24戸含む

※4 60戸のうち、地権者住戸1戸含む

2011年度 主な竣工予定物件(関西圏・首都圏毎に竣工予定順)

	物件所在地	物件総戸数
ジオ西宮北口 花鳥苑	兵庫県西宮市	45戸
ジオ千里竹見台※1	大阪府吹田市	243戸
ジオ グランデ梅田	大阪府大阪市	186戸※2
ジオ北堀江	大阪府大阪市	113戸※3
ジオ河原町二条	京都府京都市	26戸
エクステラス日生中央 ウェストテラス※1	兵庫県川西市	105戸
ジオ阪急塚口 プレミール	兵庫県尼崎市	60戸※4
セントプレイスシティ セントプレイスタワー ※1	大阪府大阪市	445戸
東豊中クラスヒルズ※1	大阪府豊中市	462戸
ジオ千川 URBAN DECO	東京都豊島区	52戸
ジオ文京 大塚仲町	東京都文京区	52戸
青葉台コートテラス※1	神奈川県横浜市	245戸

エンタテインメント・コミュニケーション事業 2010年度業績予想の修正

	09年度 通期実績 ①	10年度 当初予想 (10年5月14日) ②	10年度 今回修正予想 (10年10月29日) ③	=③-①	=③-②
営業収益	1,079億円	1,057億円	1,061億円	△18億円	+4億円
営業利益	111億円	105億円	102億円	△9億円	△3億円

《営業利益予想の主な増減要因》

- 本社費配賦額の見直し など

エンタテインメント・コミュニケーション事業

ステージ事業(宝塚歌劇)

今期の概要

2010年度上期は、宝塚大劇場・東京宝塚劇場で、月組公演「THE SCARLET PIMPERNEL(スカーレット ピンパーネル)」が好評を博した。

《宝塚大劇場》

所在地 兵庫県宝塚市

客席数 2,550席

《東京宝塚劇場》

所在地 東京都千代田区

客席数 2,069席



スポーツ事業(ベースボール)

今期の概要

2010年度は、阪神タイガースが多くのファンの声援を受け、シーズン終盤まで健闘した結果、リーグ2位でクライマックスシリーズ出場を果たした。また、主催試合の入場人員は、300万人を上回る高い水準を維持した。

戦績: 2位

主催試合入場人員数: 3,006千人

《阪神甲子園球場》

所在地 兵庫県西宮市

客席数 47,808席



旅行・国際輸送事業 2010年度業績予想の修正

	09年度 通期実績 ①	10年度 当初予想 (10年5月14日) ②	10年度 今回修正予想 (10年10月29日) ③	=③-①	=③-②
営業収益	629億円	671億円	678億円	49億円	+7億円
営業利益	3億円	20億円	28億円	+25億円	+8億円

《営業利益予想の主な増減要因》

■ 旅行事業

- ・ 欧州方面を中心に海外旅行が順調に推移

■ 国際輸送事業

- ・ 回復の遅れていた米州・欧州にも復調の気配がみられるなど、海外法人が堅調に推移

旅行・国際輸送事業

【旅行事業 2010年度第2四半期の概況】

◆海外旅行 業界 第 3 位 (注)
取扱高 1,233 億円 (前期比 +6.0%)

◆国内旅行 業界 第 7 位 (注)
取扱高 681 億円 (前期比 △0.9%)

◆総取扱高 業界 第 4 位 (注)
取扱高 1,923 億円 (前期比 +3.4%)

※(注)取扱高は、4月-9月までの合計値。業界順位は、4-8月までの合計値による順位。
観光庁「主要旅行業者の旅行取扱状況速報」より

【海外旅行】

アイスランド火山噴火の影響を一時的に受けたものの、主力の欧州方面や中国方面を中心に、全般的に順調に推移した。

【国内旅行】

平城遷都1300年、大河ドラマ「龍馬伝」等の話題もあり、近畿、中四国方面をはじめ、全般的に堅調に推移した。

【阪急交通社旅行ブランド】

行きたい旅、見つかる。



見つけた! 私だけの旅



旅。あなたにふさわしく



ともに、感動。深まる。



「思いどおりの旅」という贅沢を。



【国際輸送事業 2010年度第2四半期の概況】

◆売上高※1 396億円 (前期比 +31.8%)

日本 231億円 (前期比 +27.1%) ※2

海外 165億円 (前期比 +39.1%) ※3

※1. 輸出運賃原価相当分を含む

※2. 国内法人(4月-9月)の単純合計

※3. 海外法人(1-6月)の単純合計、10年6月末の為替レートで換算

【日本】

仕入航空運賃上昇の影響を受け厳しい事業環境にあるものの、前期の世界同時不況の影響を強く受けた状況からは回復基調。

【海外】

米州・欧州の荷動きも徐々に回復し、全般的に堅調に推移。

【阪急阪神エクスプレスのグローバルネットワーク】

拠点数：国内58／海外88



ホテル事業

2010年度業績予想の修正

	09年度 通期実績 ①	10年度 当初予想 (10年5月14日) ②	10年度 今回修正予想 (10年10月29日) ③	=③-① ※	=③-②
営業収益	610億円	691億円	674億円	+64億円	△17億円
営業利益	△17億円	2億円	1億円	+18億円	△1億円

※ 2010年4月1日付で、飲食事業を流通セグメントより移管

《営業利益予想の主な増減要因》

- 景気低迷の長期化による宴会需要の回復の遅れ(近畿圏)
- 経費削減努力 など

ホテル事業 今後の新規出店計画

ホテルの基本機能である「快眠」をコンセプトに据えた 宿泊主体型ホテル「remm」を展開

レム鹿児島(仮称) ＜2011年オープン予定＞



外観イメージ

所在地:鹿児島県鹿児島市東千石町
(南九州最大の商業集積地「天文館」の中心に位置)

延床面積:約7,846 m²

建物規模:地上13階

フロア構成:1～2階 商業施設(飲食/コンビニエンスストア等)

3階 ホテルロビー及び客室

4～13階 客室

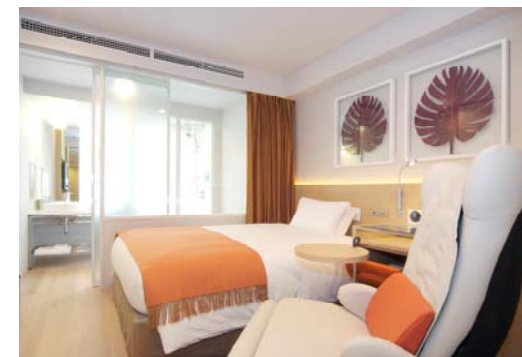
客室数:総数251室

シングルルーム 168室(14～15 m²)

ツインルーム 82室(18～26 m²)

ユニバーサルルーム 1室(25.6 m²)

駐車場:41台



客室イメージ

レム新大阪(仮称) ＜2012年オープン予定＞



外観イメージ

所在地:大阪市淀川区宮原1丁目(JR新大阪駅直結)

敷地面積:約4,150 m²

建物規模:地上17階

ホテル概要:12階ホテルロビー及び客室

13～17階ホテル客室

客室構成:総数296室

シングル255室(14.4 m²)

ツイン41室(23.7 m²)

流通事業

2010年度業績予想の修正

	09年度 通期実績 ①	10年度 当初予想 (10年5月14日) ②	10年度 今回修正予想 (10年10月29日) ③	=③-① ※	=③-②
営業収益	629億円	545億円	532億円	△97億円	△13億円
営業利益	4億円	4億円	5億円	+1億円	+1億円

※ 2010年4月1日付で、飲食事業をホテルセグメントに移管するなどの事業再編を実施

《営業利益予想の主な増減要因》

- 店舗・管理部門運営の効率化など

流通事業

ダブルデイ新店オープン



ダブルデイ たまプラーザテラス店外観

- 2010年10月7日東急・田園都市線「たまプラーザ駅」直結の商業施設「テラス ゲートプラザ」内に、新店を開店。

ダブルデイ たまプラーザテラス店概要

住所 : 神奈川県横浜市青葉区美しが丘1-1-2

店舗面積: 約51 坪(約168 m²)

営業時間: 10:00 ~ 21:00

定休日: 不定休(商業施設に準ずる)

ダブルデイ・カラーフィールド共通のポイントカード導入

- ダブルデイ・カラーフィールド全店舗共通のポイントカードを2010年8月20日より導入。

概要

	お買い上げ金額(税抜)	進呈ポイント
カラーフィールド	500円	25P
ダブルデイ	1,000円	10P

500ポイントでダブルデイ・カラーフィールドで使える500円OFFクーポンを発行。



2010年10月25日現在

共通ポイントカード

ダブルデイ・カラーフィールド店舗について

ダブルデイ

関西地区

・梅田店 ・なんばパークス店 ・茨木店 ・箕面店 ・宝塚店 ・西宮ガーデンズ店 ・川西店 ・明石店
・FACTORYOUTLET岸和田店 ・FACTORYOUTLET鶴見店

関東地区

・コレットマーレみなとみらい店 ・吉祥寺店 ・たまプラーザテラス店(10/7 開店)

九州地区

・福岡店 ・福岡パルコ店 ・小倉店 ・FACTORYOUTLET福岡マリノアシティ店

カラーフィールド

・梅田店 ・東梅田店 ・梅田店(カラーフィールドリラックス) ・千里中央店 ・デュー阪急山田店
・ココエあまがさき店 ・西宮北口店 ・阪急西宮ガーデンズ店 ・三宮店 ・西神中央店
・伊丹テラス店 ・石橋店 ・川西店 ・宝塚店

コア事業の構成会社

都市交通事業	
鉄道	阪急電鉄 阪神電気鉄道 能勢電鉄 北大阪急行電鉄 北神急行電鉄 神戸高速鉄道
自動車	阪急バス 阪神バス 阪急観光バス 阪急田園バス 大阪空港交通 阪急タクシー 阪神タクシー
その他	阪急レールウェイサービス レールウェイ・テクノロジー グローバルテック 阪急阪神電気システム アルナ車両 アーバン・エース 阪急阪神エムテック ハックス阪神 ニッポンレンタカー阪急 阪急ドライビングスクール服部緑地 阪神ステーションネット

不動産事業	
不動産賃貸・ 不動産分譲	阪急電鉄 阪神電気鉄道 阪急不動産 阪神不動産 大阪ダイヤモンド地下街
その他	阪急阪神ビルマネジメント 阪急阪神セキュリティサービス 阪急阪神テクノサービス 阪急阪神クリーンサービス ハイ・セキュリティ・システム 阪急リート投信 阪急インベストメント・パートナーズ
エンタテインメント・コミュニケーション事業	
スポーツ	阪神電気鉄道 阪神タイガース ウエルネス阪神
ステージ	阪急電鉄 宝塚クリエイティブアーツ 宝塚舞台 梅田芸術劇場
コミュニケーション メディア・ その他	阪急アドエージェンシー 阪神コンテンツリンク 阪急コミュニケーションズ バイ・コミュニケーションズ 阪神ケーブルエンジニアリング アイテック阪急阪神 システム技研 阪急アミューズメントサービス 阪神総合レジャー 六甲摩耶鉄道

旅行・国際輸送事業	
旅行	阪急交通社 阪急阪神ビジネストラベル 阪急トラベルサポート
国際輸送	阪急阪神エクスプレス 阪急阪神ロジパートナーズ HANKYU HANSHIN EXPRESS (USA, UK, NETHERLANDS, DEUTSCHLAND, HONG KONG, SINGAPORE, THAILAND, PHILIPPINES, MALAYSIA, TAIWAN, SGANGHAI, BEIJING, KOREA,の13社)
その他	阪急阪神交通社ホールディングス
ホテル事業	
ホテル	阪急阪神ホテルズ 高知新阪急ホテル 第一ホテル九州 阪神ホテルシステムズ 有馬ビューホテル 天橋立ホテル 阪急阪神レストランズ
流通事業	
流通	阪急電鉄 阪急リテールズ いいなダイニング

2010年9月30日現在

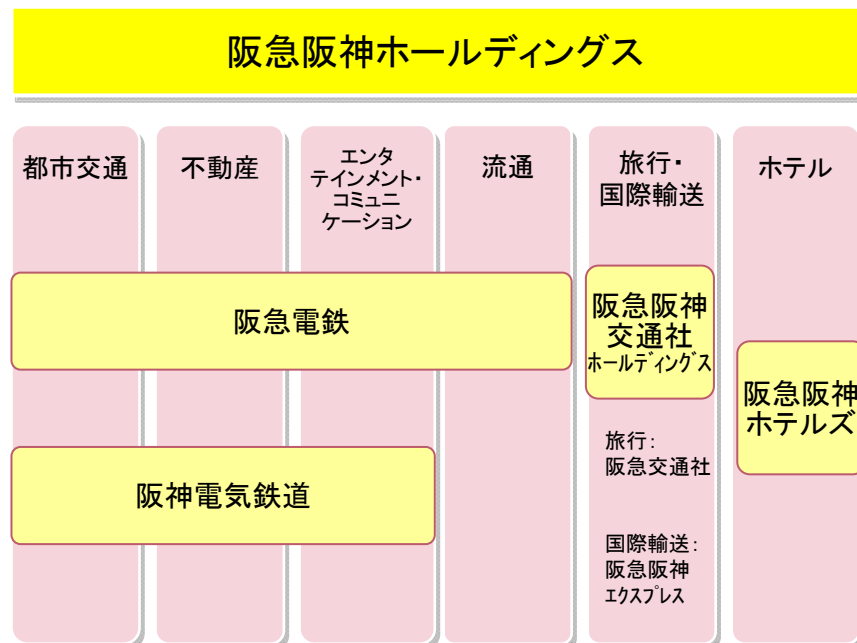
2010年9月30日現在

【凡例】

「コア事業」の名称	
「事業別セグメント」 における業種の名称	連結子会社の名称(「コア事業」として 管理している会社のみ記載)

参考資料

運営体制

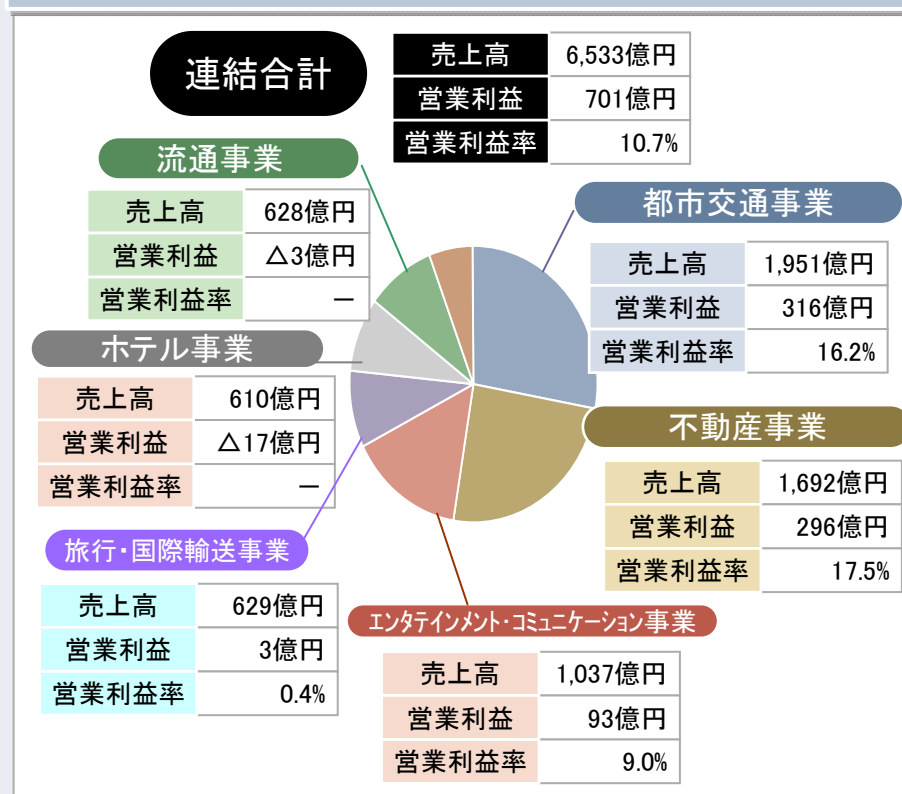


2010年9月30日現在

収益構造

- 都市交通事業、不動産事業の2事業で
売上高の約5割、営業利益の約9割を占める

営業収益構成(2009年度連結ベース)※



※ 各セグメントの売上高及び営業利益は、セグメント間消去前の数値[財務会計ベース]

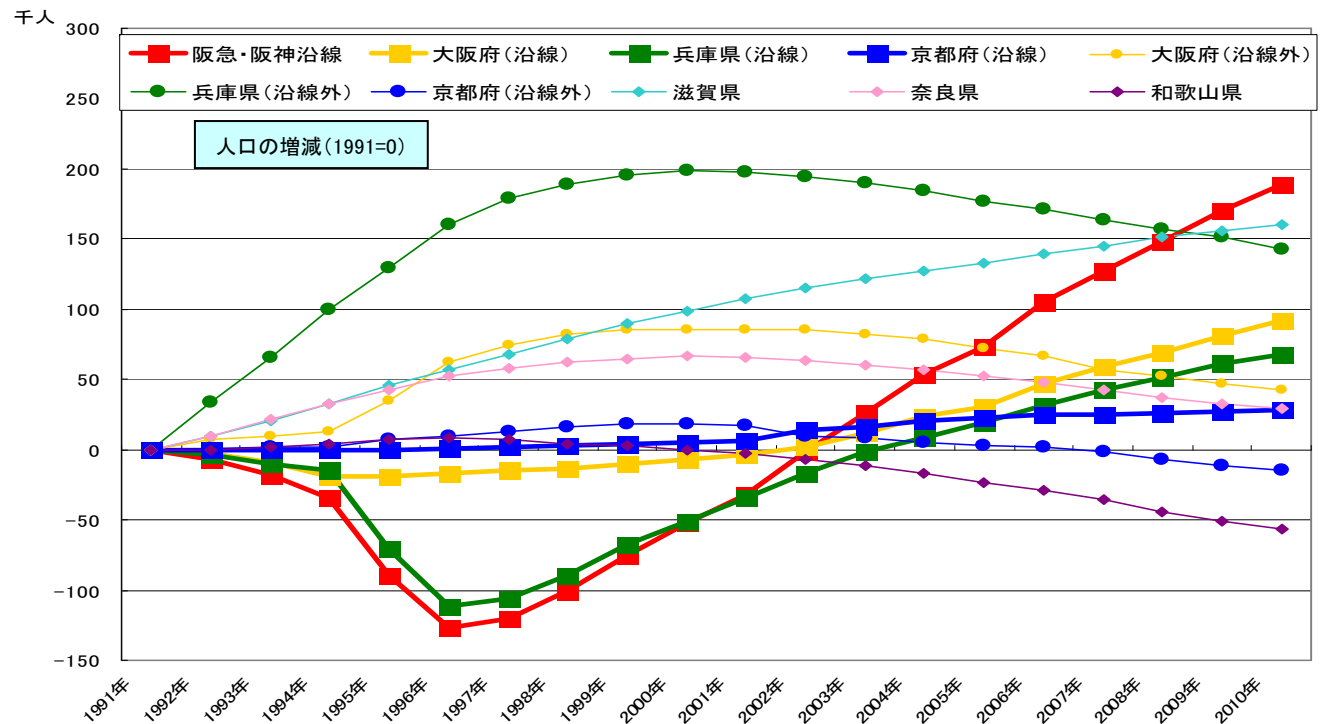
営業路線と主要プロジェクト



人口推移

出所)地域経済要覧(東洋経済)より、
住民基本台帳人口、2010年3月末

	面積(km ²)	人口(千人)
阪急・阪神沿線	1,310	5,479
大阪府(沿線)	446	2,563
兵庫県(沿線)	466	2,256
京都府(沿線)	398	661
阪急・阪神沿線外	26,032	15,173
大阪府(沿線外)	1,452	6,120
兵庫県(沿線外)	7,930	3,331
京都府(沿線外)	4,215	1,891
滋賀県	4,017	1,387
奈良県	3,691	1,412
和歌山県	4,726	1,033
合 計	27,342	20,652



住んでみたい街アンケート(関西圏)

出所)Major7(住友不動産他8社)による調査(2010年9月6日)

順位	地名	(所在)
1	芦屋	(兵庫県芦屋市)
2	西宮	(兵庫県西宮市)
3	神戸	(兵庫県神戸市)
4	夙川	(兵庫県西宮市)
5	岡本	(兵庫県神戸市)
6	千里中央	(大阪府豊中市)
7	梅田	(大阪府大阪市)
8	茨木	(大阪府茨木市)
9	京都	(京都府京都市)
10	三宮	(兵庫県神戸市)

順位	地名	(所在)
11	宝塚	(兵庫県宝塚市)
12	御影	(兵庫県神戸市)
13	高槻	(大阪府高槻市)
14	箕面	(大阪府箕面市)
15	天王寺	(大阪府大阪市)
15	難波	(大阪府大阪市)
17	吹田	(大阪府吹田市)
18	豊中	(大阪府豊中市)
19	苦楽園	(兵庫県西宮市)
19	元町	(兵庫県神戸市)

阪急・阪神沿線 : 阪急電鉄、阪神電気鉄道の駅のある次の地域とする(第2種鉄道事業を含む)
 大阪府 : 大阪市(24区のうち福島区、此花区、西区、浪速区、西淀川区、東淀川区、淀川区、北区、中央区)、豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町
 兵庫県 : 神戸市(9区のうち東灘区、灘区、兵庫区、長田区、中央区)、尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市
 京都府 : 京都市(11区のうち中京区、下京区、右京区、西京区)、向日市、長岡京市、大山崎町

ランキング上位エリアは15位の天王寺を除き全て阪急・阪神沿線である

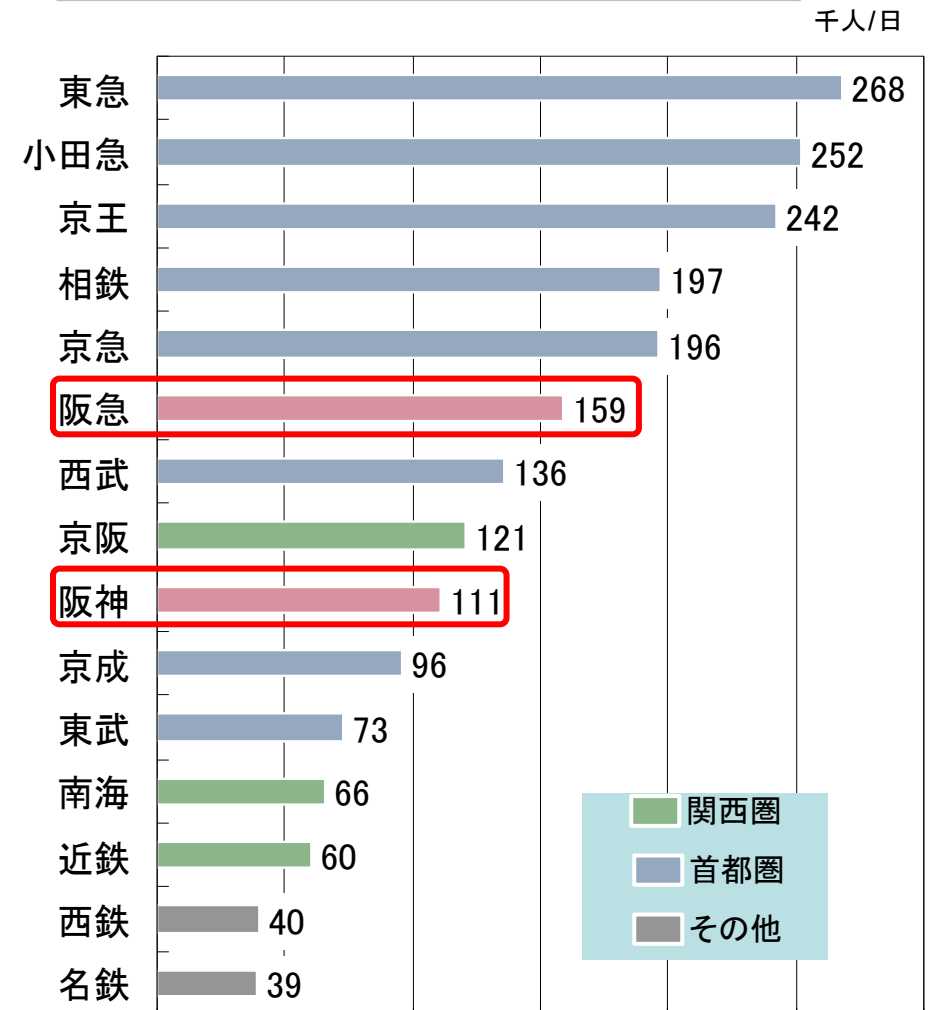
関西民鉄各社の概要

* 相互乗入れによる他社との共同管理駅を除く

	営業 キロ	輸送人員 (1日平均)	総駅数 *	乗降者数 が1日 5,000人 未満の 駅数①*	総駅数に ①が 占める 比率 *
近鉄	508.2km	1,579千人	327駅	208駅	64%
阪急	146.5km	1,660千人	85駅	4駅	5%
南海	154.8km	621千人	99駅	50駅	51%
京阪	91.1km	777千人	84駅	27駅	32%
阪神	48.9km	530千人	41駅	5駅	12%

出所)国土交通省ホームページより 2010年3月末現在、
社団法人日本民営鉄道協会「大手民鉄の素顔」より
2010年3月末現在(第2種鉄道事業を含む)

輸送密度(1日平均旅客輸送人員/営業km)

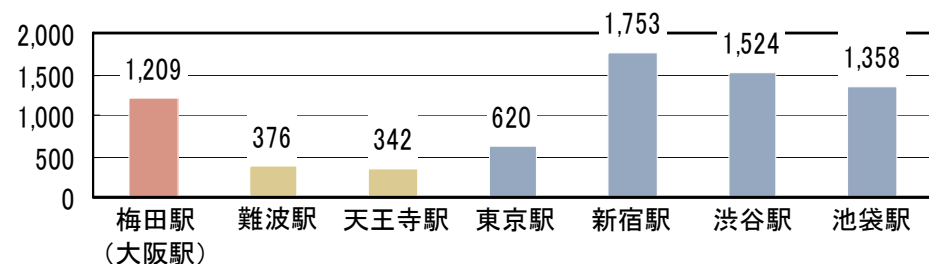


出所)社団法人日本民営鉄道協会「大手民鉄の素顔」より
2010年3月末現在(第2種鉄道事業を含む)

駅乗車人員

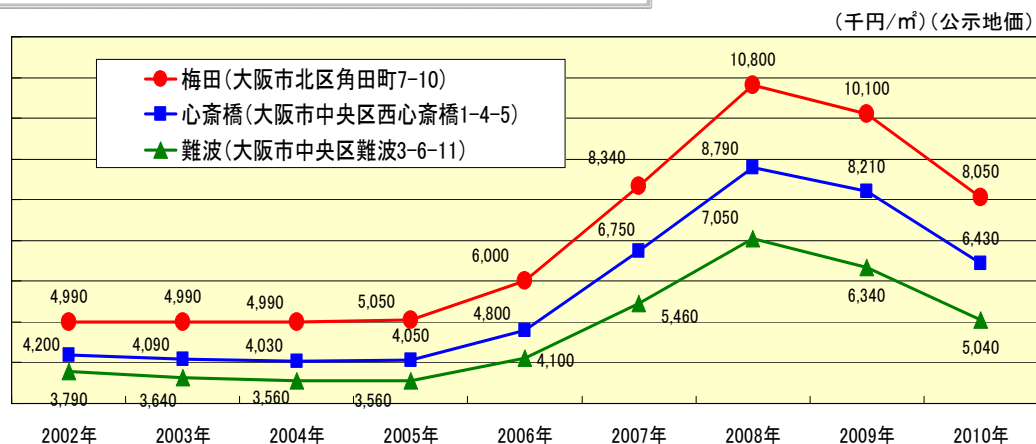
出所)都市交通年報平成21年版(運輸政策研究機構)を参考

(千人/日)



梅田(大阪): 大阪市交通局(西梅田・東梅田を含む)、JR西日本、阪急、阪神
難波: 近鉄、南海、大阪市交通局
天王寺: JR西日本、近鉄(阿倍野橋)、阪堺、大阪市交通局
東京: JR東日本、東京地下鉄
新宿: JR東日本、京王、小田急、東京都交通局、東京地下鉄、西武
渋谷: 東急、JR東日本、東京地下鉄、京王
池袋: JR東日本、東武、西武、東京地下鉄

大阪の主要商業エリアの地価の推移



主な商業施設の売場面積

●当社関連施設

阪急百貨店 (阪急うめだ本店) *1	建替工事前 約61,000㎡ 現在(I期棟) 約27,000㎡
阪神百貨店	約53,000㎡
阪急三番街	約40,000㎡
HEP FIVE	約23,000㎡
HEP NAVIO	約21,000㎡
ハービスPLAZA ENT	約21,000㎡
NU chayamachi	約12,000㎡
ハービスPLAZA	約9,000㎡
ディアモール大阪	約7,200㎡

●当社以外の施設

ヨドバシカメラ [ヨドバシ梅田全館]	約50,000㎡
大丸梅田店*2	約40,000㎡
ヒルトンプラザイースト	約11,000㎡
ヒルトンプラザウエスト	約8,000㎡
ホワイティうめだ	約14,000㎡
イーマ	約8,000㎡

*1: グランドオープン後の売場面積: 約84,000㎡

メンズ館・インクス館他を含んだ現在の売場面積: 約50,000㎡

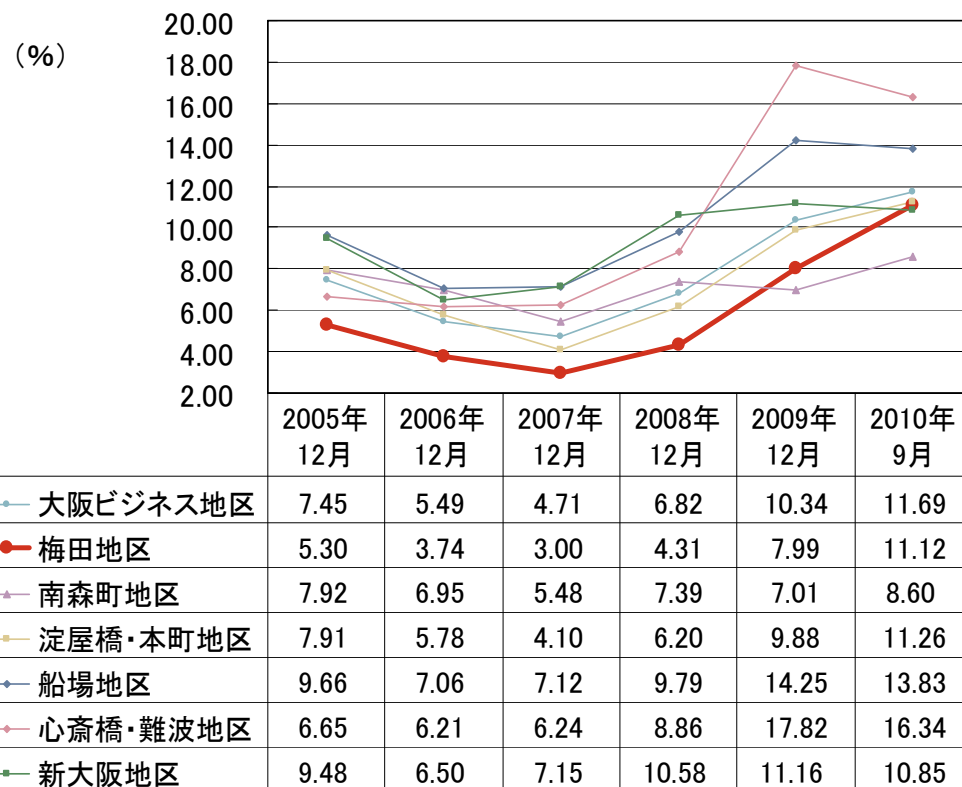
*2: 改装後の売場面積: 約64,000㎡

出所)

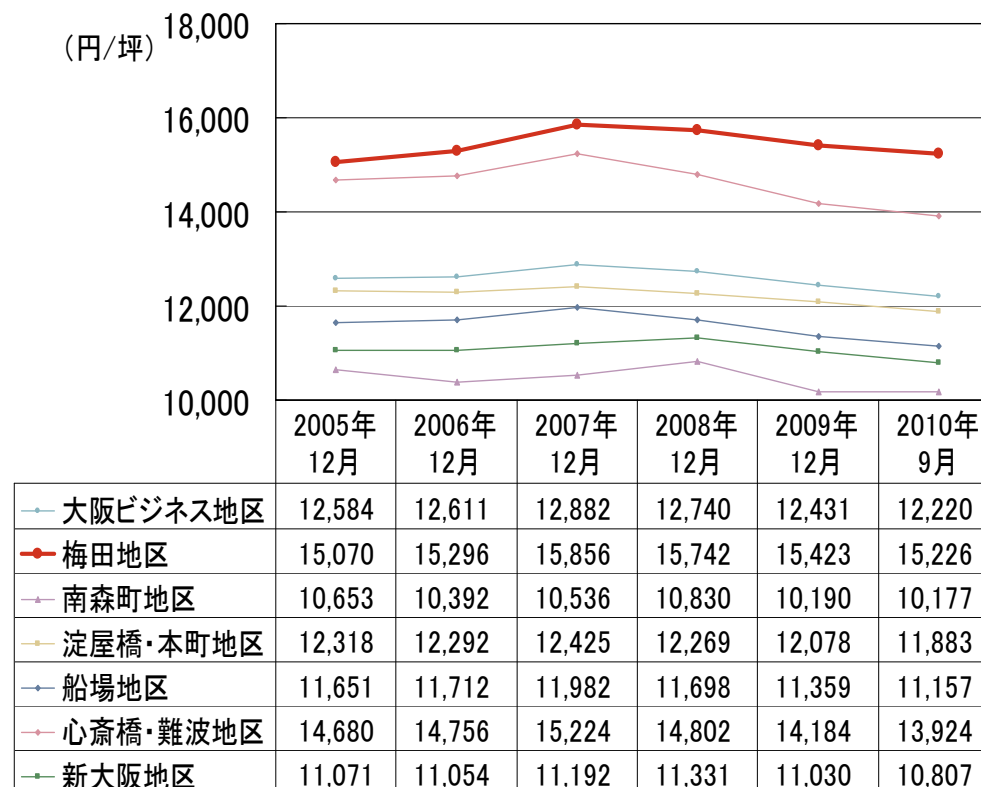
当社データ、各社ホームページ、

全国大型小売店総覧(株東洋経済新報社)、日本ショッピングセンター協会資料

大阪ビジネス地区 主要6地区別
平均空室率の推移



大阪ビジネス地区 主要6地区別
平均賃料の推移



(ご参考)

東京都心5区平均	17,844	19,406	21,998	22,186	18,978	17,709
----------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

当社主要賃貸施設

(2010年3月現在)

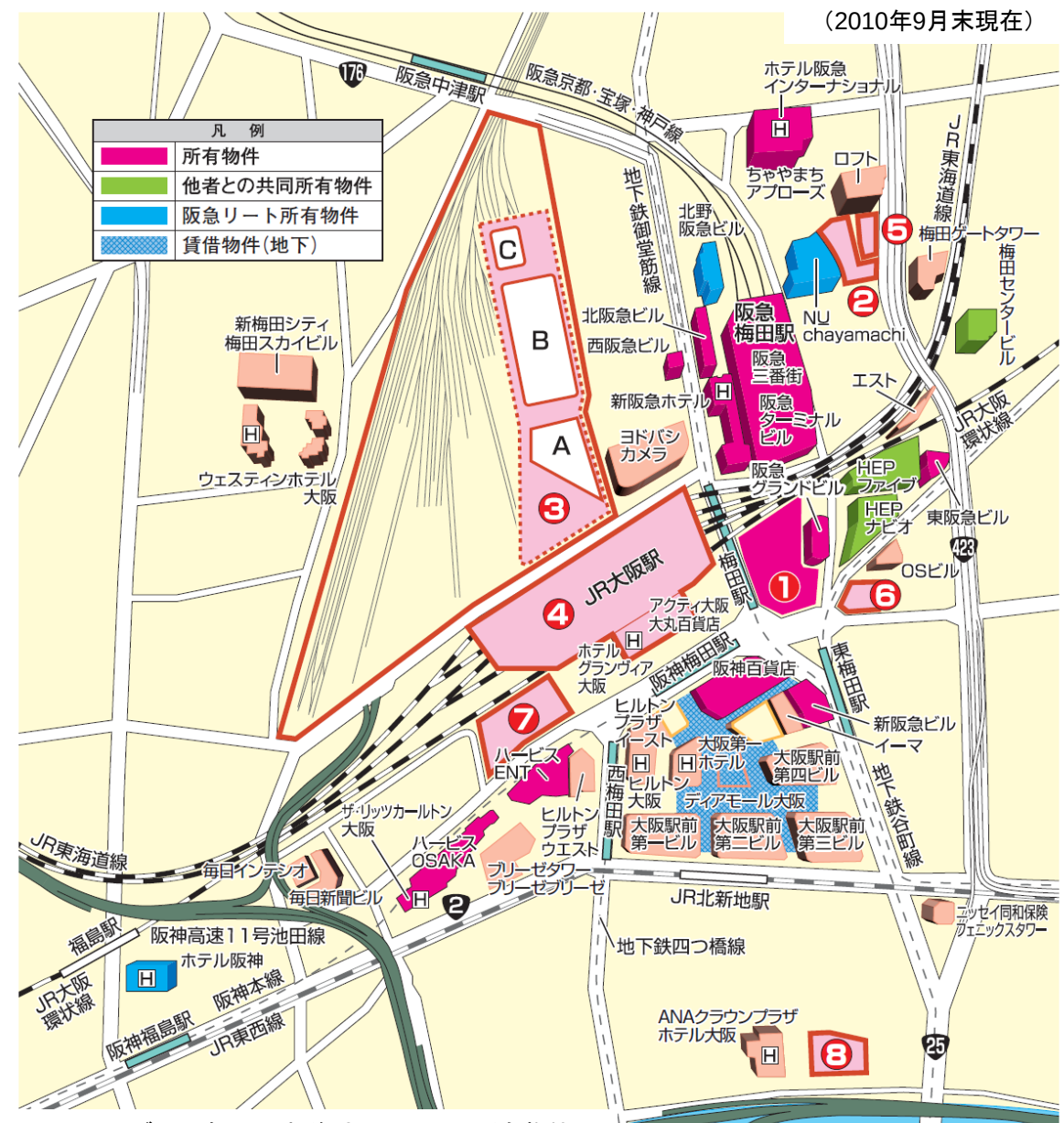
ビル名	賃貸面積 (㎡)	概要	竣工時期
大阪神ビル (阪神百貨店)	98,793	地下5階地上11階建	1963年 6月
梅田阪急ビル (阪急百貨店梅田本店)	55,437	地下2階地上13階建	1920年11月 (建替工事前)
梅田阪神第1ビル (ハービスOSAKA)	75,561	地下5階地上40階建	1997年 3月
梅田阪神第2ビル (ハービスENT)	52,545	地下4階地上28階建	2004年11月
阪急茶屋町ビル (ちゃやまちアブローズ)	50,400	地下3階地上34階建	1992年11月
阪急三番街	39,240	地下2階地上4階建 (一部地下4階建)	1969年11月
阪急グランドビル	31,732	地下3階地上32階建	1977年 8月
阪急ターミナルビル	25,553	地下4階地上17階建	1972年 3月
ナビオ阪急 ※ (HEP NAVIO)	15,374	地下2階地上10階建	1980年10月
阪急ファイブビル ※ (HEP FIVE)	12,498	地下3階地上10階建	1998年11月
梅田センタービル ※	9,680	地下2階地上32階建	1987年 3月

※ 他者との共同所有で、賃貸面積は当社所有分。

梅田地区周辺での開発動向

赤字 = 当社が関与

- ① 梅田阪急ビル建替
- ② 茶屋町東地区市街地再開発事業
- ③ 大阪駅北地区(北ヤード)開発 先行開発区域(A・B・Cブロック)
- ④ 大阪駅改良・新北ビル開発 - 西日本旅客鉄道(株)
- ⑤ 大阪東急ホテル跡地開発(CHASKA CHAYAMACHI)
- (有)武蔵野プロパティーズ(SPC)
- ⑥ 大阪富国生命ビル建替 - 富国生命保険(相)
- ⑦ 大阪駅西地区開発 - 日本郵政グループ、西日本旅客鉄道(株)
※2010年5月開発延期を公表
- ⑧ 新ダイビル建替 - ダイビル(株)



* HEPファイブは阪急リート投資法人との共同所有物件

大規模プロジェクトのスケジュール一覧

	物件概要	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
梅田阪急ビル建替	延床面積 :254,000㎡ 用途 :百貨店・オフィス				オフィス棟建設工事	2010年4月 オフィス棟竣工 延床面積 103,000㎡ 賃貸面積 70,000㎡		2012年春 グランドオープン(予定) 延床面積 151,000㎡
			I 期棟新築工事		II 期棟新築工事			
梅田北ヤード開発 (先行開発区域)	延床面積 :556,700㎡ 用途 :オフィス、商業、 ホテル、住宅 等	開発事業者 決定	2007年6月 A・B・Cブロック 土地引渡		2010年3月末 A・B・Cブロック 新築工事着工			2013年3月 竣工(予定)
			行政協議、設計等		新築工事			
茶屋町開発 [東地区]	延床面積 :36,300㎡ 用途 :商業、住宅、 学校 等			2008年12月 新築工事着工			中・高層階マンション分譲 174戸	
			行政協議、設計等		新築工事		2011年6月末 再開発建物竣工 (予定)	
新大阪阪急ビル	延床面積 :約35,600㎡ 用途 :ホテル「remm」、 店舗、オフィス バスターミナル 等					2010年5月 新築工事着工		2012年7月 竣工(予定)
			行政協議、設計等		新築工事			

ホテル一覧

※ 直営ホテル・・・阪急阪神ホールディングスの連結決算上、宿泊・宴会・飲食の売上を営業収益に計上しているホテル

※ 下記のホテル数・客室数には、ザ・リッツ・カールトン大阪（大阪市北区 292室）は含まない

直営ホテル(阪急阪神ホテルズ)	16ホテル	3,778室	} 44ホテル 8,461室
直営ホテル(その他)	3ホテル	429室	
その他(FC等)	25ホテル	4,254室	



阪急阪神第一ホテルグループ

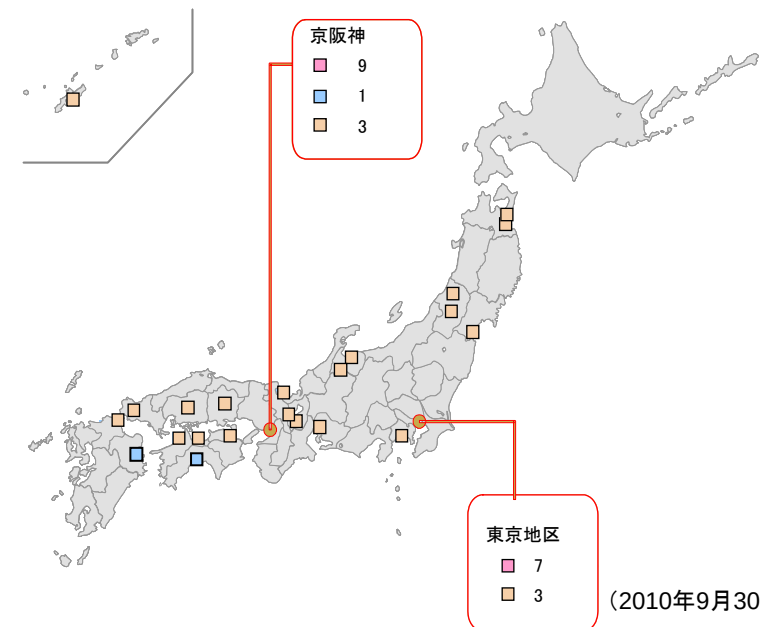
第一ホテル東京
第一ホテルアネックス
レム日比谷
東京新阪急ホテル築地
レム秋葉原
第一ホテル東京シーフォート
吉祥寺第一ホテル
京都新阪急ホテル
ホテル阪急インターナショナル
大阪新阪急ホテル
新阪急ホテルアネックス
ホテル阪神
千里阪急ホテル
ホテル阪急エキスポパーク
宝塚ホテル
六甲山ホテル

有馬ビューホテル
大分第一ホテル
高知新阪急ホテル

アワーズイン阪急
梅田OSホテル

東京第一インハブ
東京第一インハブアネックス
モンタナリゾート
東京第一ホテル鶴岡
東京第一ホテル米沢
第一ホテル両国
第一イン池袋
第一イン湘南
富山第一ホテル
第一イン新湊
東京第一ホテル錦
ホテルボストンプラザ草津
ホテルロイヤルヒル福知山
天橋立ホテル
大阪第一ホテル
神戸三田新阪急ホテル
真庭リバーサイドホテル
呉阪急ホテル
東京第一ホテル下関
高松国際ホテル
東京第一ホテル松山
今治国際ホテル
東京第一ホテルオキナワグランメルリゾート

ホテル所在地



(2010年9月30日現在)

【メモ】